

自宅が資格学校（1級建築士）

1. 自宅を資格学校にするための方法

自宅に居ながら「資格学校」に通学したような状況をHPで提供する（1級建築士の学科と製図のみ）
そのため、以下の講座を設ける。ただし、2018年は①と②の提供であり、③は2019年実施予定である。

- (1) 製図：予測課題の添削とランク評価
- (2) 学科：模擬試験の正解分析と個別質疑応答
- (3) 学科&製図：パワーポイント音声付き解説（その後、ライブ講座）に対応させるため、2017年12月に現状のHP容量を5倍に増設する。
なお、2018年から開始する「自宅が資格学校」に対応させるため、2017年12月に現状のHP容量を5倍に増設する。

(1) 製図：予測課題の添削とランク評価

- ・資格学校の製図講座は、毎週、予測課題について6時間半をかけて作図&記述を仕上げ、その内容のチェックを受ける。
- ・これを自宅で再現するには、次のことを実施する。
 - ① HP上で「予測課題(3パターン)」を公開する。
 - ② その予測課題を各自が自宅でも6時間半かけて作図&記述する。
 - ② その内容を、研究会へメール添付する（メールでの個別質問も可）。
 - ③ その内容を、こちらで添削（ランク評価）してメール連絡する。
- ・研究会による添削やランク評価は、下記のようなものとなる。
- ・資格学校では、多くの受験者が同時に学習しているため、作図&記述の終了後の添削は、概ね10分～30分程度である。
- ・それに比較して、研究会の添削は、1時間以上かけて詳細にチェックし、採点一覧表で減点箇所が分かるように連絡する。
- ・本内容は、個人対応になりチェックに時間を要するので、1予測課題の対応費3,000円（2018年製図講座から開始）。
- ・なおHP内で、予測課題の解答例を掲載するので、この個人対応を受けなくても無料で製図を学習することもできる。

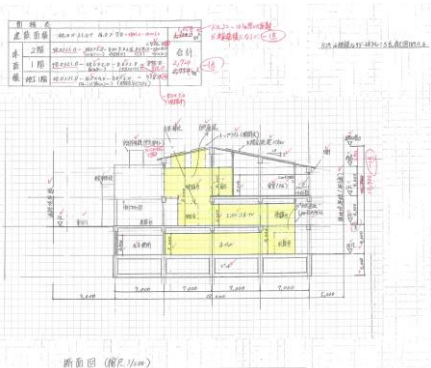


図1 図面の添削例

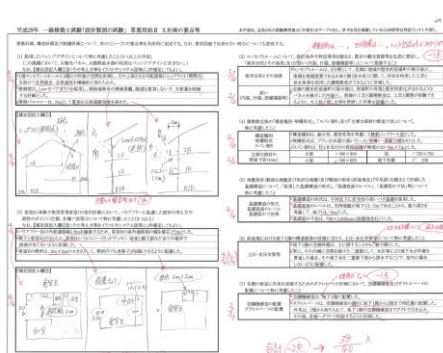


図2 記述の添削例

図3 採点一覧表

(2) 学科：模擬試験の正解分析と個別質疑応答

- ・資格学校の学科講座では、定期的に「模擬試験」を実施して、その分析表（グラフ）を作成して、各自の実力を分析把握している。
- ・これを自宅で再現するには、次のことを実施する（この詳細内容は現在検討中で2018年5月から開始する）。
 - ① HP上で「模擬試験125問」を公開し、自宅で時間を決めて解答する（I II 2時間、III 1時間45分、IV V 2時間45分）。
 - ② その内容を、研究会へメール添付する（メールでの個別質問も可）。
 - ③ その内容を、こちらで採点し、分析表（グラフ）により欠点が分かるように分析し、メール連絡する。
- ・模擬試験は、難易度別の問題を分散させて出題し分析する。
- ・その結果、分析表から各自の学科別実力、および難易度別の理解度などが分かる。
- ・傾向として資格学校の模擬試験は、過去問の難易度分散試験であり、模擬100点超えで合格ラインの目安となる。
- ・従って、当研究会の模擬試験も同様に、100点超えを一つの目安にできるような問題とする。
- ・本内容は、個別対等になり分析一覧表作成に時間を要することから、1模擬試験の対応費2,000円（2018年5月から実施）。
- ・なお、HPで模擬試験125問の解答も掲載するので、この個人対応を受けなくても無料で製図を学習することもできる。

(3) 学科&製図：音声付き解説

- ・資格学校の最大のメリットは、ライブ講座である（最近では、講座内容のDVD視聴もある）。
- ・これを自宅で再現するには、HPで見れるようにすれば良い。
- ・この取り組みは、2019年から開始できるように進める。
- ・第一ステップとして「パワーポイントによる音声付き解説」から開始する。
- ・最終的には映像によるライブ講座が見れるHPとしたい。
- ・ただし、ここまでのサービスを組み込むには、かなりの労力を要するので、少なくとも実行委員1名は、サラリーマンをやめて専属になる
必要があり、その点も含めより良いHPになるよう検討していく。
- ・なお、2019年から開始する「音声付解説」は無料とする（会員講座）。